

発行所/青山同窓会 〒951 新潟市関屋下川原町2-635 新潟県立新潟高等学校内 TEL025-266-5268 編集、発行人/上村光司 印刷所/オリオン印刷機 〒950 新潟市南出来島1-19-1 TEL025-283-2151 FAX025-283-3804

ごあいさつ

青山同窓会会長 37回 鈴木正二



会員の皆様には、お元気で、各界にご活躍の事とお喜び申し上げます。

まだまだ先の事のように思っております。またまた先のことになり、母校創立百周年も来年迎えることとなりました。これにつきましては、同窓会、学校、PTA、三者力を合わせた実行委員会の下で、着々と準備が進められております。特に同窓会会員の皆様には募金事業について、大変ご協力をいただいております。心から厚く感謝申し上げます。

各期幹事さんのご努力で今まで以上に沢山の同窓生に呼ばれていただきこの同窓会総会が益々盛大な、楽しい集いとなる。新しい出席者が増えましますよう期待しております。準備その他で「苦労されまします。幹事の皆様に深く感謝し、一年に一度、同窓あいつどい御礼申し上げます。

東京青山同窓会 大盛況の新人歓迎会

さる5月17日午後6時より、恒例の「新人歓迎会」が日本橋の東洋経済ビル9階ホールで盛大に開催されました。百名近い緒先輩が、百名以上の新人を暖かく迎えられ、会場は溢れんばかりの大盛況であつたこともあり、華やかな雰囲気の中で、新旧会員の尽きるごこない歓談が続きました。先輩会員の暖かい歓迎の誘りと自覚を実感して、いよいよお知らせします。



小池義之氏(66回卒)が「これからの自民党」、住宅金融公庫総裁 高橋進氏(60回卒)が「住み良い地方都市」と題して講演され、出席者は熱心に聞き入っております。懇親会は野崎雅恵さん(94回卒)の先輩としてのこれらに二次会へと続いて行きました。

からの大学生活への親身なアドバイスから始まりました。新人女性同窓会員の出席が多かったこともあり、華やかな雰囲気の中で、新旧会員の尽きるごこない歓談が続きました。先輩会員の暖かい歓迎の誘りと自覚を実感して、いよいよお知らせします。

創立百周年もあと二年余りとなりました。先回のものとなり重なりますが、準備状況についてお知らせします。 一、組織 平成3年度第一回実行委員会を6月21日開催しました。新校長を迎え、委員の追加、変更を含めて組織の充実を図りました。左図の通りです。 二、式典・祝賀会 平成4年10月17日(土) 青山祭(文化祭)の一環として(2頁6段目へつづく)

新潟高校百周年記念実行委員会

Table with columns for roles (役員), members (会 長, 副 会 長, 常 任 委 員), and various committees (総務部, 事業部, 行事部, 事務局).

百周年について(四) 実行委員総務 59回 関根彰圓 新潟市体育館 ホテル新潟

新任のご挨拶

学校長 滝沢 強一



この四月、前宮地校長の後を受けて着任致しました。本校は来年百周年を迎えようとしている、県下随一の名門校であります。非才の身に於て果たして任に適うかどうかの念が頭をよぎりますが、同時にまたわがふるさとと思いい限らない感謝の念と愛着の心をもつ新潟高校のため、微力とはいえども全力を尽くしたい気持ちで一杯であります。

生徒に教えますが、同時に生徒によって教えられるも。教室で恥はかけないと思ひ、新任したのは昭和33年4月でした。現在の本館が出来て2年目、消失を免れた木造体育館がまだあり、前庭には工作室改造の図書館、後ろのグラウンドにはバラック建ての急造校舎がうなぎの寝床の様に伸びていました。校舎はそんな状態でありましたが、生徒はそんなことは大して気にしていません。隣との仕切り板をこぶしで貫通して隣クラスの授業も同時に聞けるようにしたり、体育館のハリをわたるキモ試しをしたりして結構楽しんで

たようです。以来15年間教員としての全てをこの学校で学ばせてもらいました。教員は

生徒に教えますが、同時に生徒によって教えられるも。教室で恥はかけないと思ひ、新任したのは昭和33年4月でした。現在の本館が出来て2年目、消失を免れた木造体育館がまだあり、前庭には工作室改造の図書館、後ろのグラウンドにはバラック建ての急造校舎がうなぎの寝床の様に伸びていました。校舎はそんな状態でありましたが、生徒はそんなことは大して気にしていません。隣との仕切り板をこぶしで貫通して隣クラスの授業も同時に聞けるようにしたり、体育館のハリをわたるキモ試しをしたりして結構楽しんで

ではありません。精一杯頑張って本當の応援隊になるんです。なるほどと思ひ、一も二もなく引き下がった次第でした。グラウンドには五本松もまだあり、何とはなしにまだ旧制中学の愛憎が感じられたように思ひます。

さて本校に18年振りにもどって来てみて、相変わらず応援団リーダーは声をふり絞っているし、校舎はきれいとはいえないし、よくも悪くも生徒の本質はそう変わっていないという感想です。勿論時の流れで変わっている部分があります。例えば女子生徒が格

段に増えました。昭和25年にいわゆる7人の侍が入って以来、昭和30年代は1学年50人程度だった女子生徒が今は3〜4倍の180〜200名。勿論生徒総数も増えているのですが、それにしても旧制中学時代の先輩諸氏が来校されたらあまりのカラフルな景色にクラクラとなり、早速既嘆演説が始まりそうであります。しかし青山精神は、およそ学を志し真理追及の夢を追おうとする者には、男子であれ女子であれ、立派に伝わっていくものと私は考えています。

近年本校入学はますます難願い申し上げます。

関となって来ているとの世評であり、それだけに「県下の粋」が集まってきているといえるでしょう。そういう素質ある生徒たちをいかに大きく伸ばすかが学校に与えられた使命であると思っております。より高きを仰ぎつつ大きな理想をもち、現実を果敢に克服しよう努めていくつもりであります。

時しも来年は百周年であります。百周年を立派に迎え、新潟高校がますます発展していきますよう、同窓の皆様方の一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

（前頁よりつづく）
して10月6日に実施
演奏者等未定
四、名簿
各期での調査をもとにしてコンピュータ入力中、7月中旬には調査用葉書の発送予定。
五、百年史
現在執筆中、7月30日現在申込み約800部
六、回顧録
寄稿者に依頼準備中、約300頁。内容は式典等の記録・生徒の寄稿と学校の現況・同窓と旧職員との寄稿の三分構成。
七、記念事業の施設・設備
屋外照明設備・散水設備・ピアノの予定
なお校舎改築については陳情を続けていますが現在のところ願ひ申し上げます。

今何れもか休んでいる、この時わすれずとも良い前進を「とわさわざ」八月中旬の正午から三時までを設定した講習、皆で頑張ったけど今思っても汗が出ます。

ころ見直しは立っていません。八、募金
平成3年2月22日に各郷の幹事会を開いて、懇話書・要項・搬送用紙のご送配を依頼しました。現在受付中で、7月10日現在1、350万円の申込みがありました。
九、記念品
募金された方には記念のテレフォンカードを差上げたいと思っております。なお祝賀会当日「新高グズ」の記念品の販売も検討しております。
次の実行委員会は10月下旬の予定ですが、それまでに式典等に至る時間表や各パートの予算等も確定したいと考えております。なにとぞ会員各位の全面的なご支援の程をお願い申し上げます。

出、モデルコース作りなどしてやんと実施したわが団子
全国にも例がなく、議論百出、モデルコース作りなどしてやんと実施したわが団子
由研修も今は全国どこでも実施しています。全国に雄飛するわが青山健児がスキーがで

辞任のご挨拶

前校長 宮地 正樹



「二十一年ぶりにここに立ちました。皆で力を合せ、丈夫の大合唱を。」の挨拶をした四年前の新任式が昨日のように思われます。同窓会の皆様のご理解と心からのご協力・援助ご指導により、新潟高等学校長の大任を果すことができ、去る三月三十一日をもって退任をいたしました。ここにあらためて心から感謝

とお礼を申し上げます。私にとって新潟高校は、若き時代の数学担任、クラス主任としての八年間、思いもなかった校長としての四年の私にとって最も長い最良の勤務の場所となりました。それだけに去るにあたって思い出すことも数限りなく今のこのように鮮明です。手だけでなく顔まで糊だらけにして

「お礼を申し上げます。私にとって新潟高校は、若き時代の数学担任、クラス主任としての八年間、思いもなかった校長としての四年の私にとって最も長い最良の勤務の場所となりました。それだけに去るにあたって思い出すことも数限りなく今のこのように鮮明です。手だけでなく顔まで糊だらけにして

こをしながらも青陵祭でした。夏休みの大切な時間を、閑屋浜を走ることに費やし、お母さん方をハラハラさせた校区一周駅伝のわがクラスの優

受験に失敗した生徒と語り明かし大風邪をひいた閑屋浜。合格を祝してのすき焼とジュースの乾杯の連続、遂に腹痛でダウンしたのも今は懐かしい思

（次頁六列目へつづく）

商工会議所副会頭に 同窓三人選任さる

氏(55回卒、和田商社社長)
中野 進氏(57回卒、新潟交
通社長) 遠藤肇治氏(57回卒、
遠藤鋼機社長)の3名が任命
されました。4名の副会頭の
折ります。



さる6月24日新潟商工会議
所は通常議員総会を開き、新
たに中田久蔵氏(新潟冷蔵社
長)を会頭に選任しました。
その会頭を補佐する副会頭
として、青山同窓の和田進雄

内3名を青山同窓が占めるこ
ととなりました。

主な担当は和田副会頭が総
務総括、商業、中野副会頭が
地域開発、観光、情報、遠藤
副会頭は工業、広報です。中
田会頭を助けて、これからの
新潟市発展に対する経済界で
のリーダーシップが大いに期
待されます。3名のご活躍を
祈ります。

岩野祐吉先生 ご逝去

新潟中学校、新潟高校の教
官として長きにわたり活躍さ
れた岩野祐吉先生が、六月二
十五日午前永眠されました。
享年八十才。

先生は、日華事変中の昭和
十四年に新潟中学に赴任、国
語はもとより音楽を担当され
たり、滑空班(グライダー部)
の顧問もされたことがありま
した。ご専門の分野では、学
識深くあられ、「栄華物語」
等の研究でその名は全国に知
られています。また戦後、新
潟高校創立六十周年を迎えた
年には、東京芸大から合唱団
及び管弦楽団を招いて記念大
音楽会が市公会堂で開催され
ましたが、その企画・運営の

※(なお、本会報の次号では、
いたし、心より先生のご冥福
をお祈りしたいと思いま 追悼特集記事を企画しており
す。(校内幹事 板倉浩) ます。)

**新潟・黒竜江省
バドミントン親善試合と
新潟高校バドミントン部
創立40周年記念パーティ**
65回 宮川 忠和

青山バドミントンクラブ
(新潟高校バドミントン部D
B会)ではこの度創立40周
年を記念して、新潟県と関係
の深い中国黒竜江省ジュニア
バドミントンチームを招き、
新潟地区高校選手と交流を深
め、バドミントンに対する技
術の向上と国際親善を図るこ
とを目的として、新潟県バド
ミントン協会、新潟支部バド
ミントン協会、新潟県日中友
好協会とともに計画を進めて
います。7月25日に来日する
のは団長、コーチ、通訳と男
女各2名の高校生の選手です。
27日(土)には新潟高校体育
館において親善試合、28日
(日)には鳥屋野総合体育館
で親善試合が行われます。当
日「黒竜江省チーム歓迎レセ
プション」を兼ねました

**同窓会事務局
にアツクス**

この度事務局にファックス
が入りました。番号は電話と
同じ番号(0251-881338)
です。ダイヤルしますと「ファッ
クスの場合はこちら」という案内
が先に入りますので、電話の
場合はその後でお話くださ
い。

「青山バドミントンクラブ創
部40周年記念パーティ」を午
後5時30分より、新潟グラン
ドホテルで、会費7000円



(前頁よりつづく)
統のうえに新しい一頁を、こ
れが今も懸望されている新潟
高校教職員が青山精神なので
した。

昭和六十二年再び校門をく
ぐり校長として赴任した四月
一日、今は亡き石川校長先生
に電話しました。先生の第一
声はあはれげで満ちた、「ホー
でした。そしていろいろと教
えをいただいたのでした。
またこの日、心当りのない
お祝いの花束が届きました。
後日わかったのですが、東京
の青山74回の連中の「宮地の
校長室はさぞかし殺風景だろ
う」との思いやりで、それか
ら一年間海通新しい花が校長
室を飾りました。ここにあら
ためて贈り続けてくれた人々
にありがとうございますと思
います。

70回卒のみなが私のこと
も一つの理由にして、25周年
同期会を学校で、加えて当時
の授業の再現を企画、団子学
年主任の教学。今は亡き、岩野
先生の國語の授業をしました。

青山同窓会、新潟高等学校
が、間近になった百周年を期
に更に大なる発展をなさいま
すよう、また離任式で「わが
満分」といつてくれた在校生
のたいなる活躍発展を遂げる
ことを祈念して辞任の挨拶と
いたします。

佐藤隆氏 追悼特集

弔 辞

本日ここに旧制新潟中学校の同期生の一人として、余り健康でもない私が生きていて、極く最近まで元気で、活躍されておられたあなたが、急に亡くなられ、その弔辞を説まなければならぬ私の気持は、誠に断腸の思いであります。

願われれば、共に柔道部で絞られていた当時の、あなたの写真を見ますと、四年生にも拘わらず紅顔の美少年でした。昭和十八年十月、一五才数ヶ月のあなたは、お国の為に、甲種飛行予科練習生、即ち予科練に志願され、出征されて行きました。あなたと私も一人の級友の三人で、新潟市二葉町のお宅で、送別会をしたことがまざまざと思い出されます。あの時は、親兄弟も恩師でさへも止めることは出来ませんでした。残った者は唯々武運長久を祈るのみでありました。

追 憶

平成三年六月二十日

52回 廣川彰恩
 願われれば、佐藤君と知遇を得たのは、昭和十五年以來五十年、此間お互に境遇も違い、お互に歩んだ道は異なつてゐたが、何時の時代も心丈は通い合つてゐた。

余りにも早い命に呆然とし

たのは私丈でなく大方の人々の心情であつたと思う。如何にも深い、武人にも似た壮絶な最期であつた。

想い起せば昭和十九年敗戦の兆濃厚な時期に敢然と志願して戦争に参じた事と思ひ合せると先づ人間として純粹であり、義に厚かつた、これこそ男の美しさと云うものであらう。

隆君の死によつて肉身の姿形は消えて了つた、然し乍ら



佐藤隆氏52回衆議院議員(元農林水産大臣)は4月17日東京虎ノ門病院で病癒えず惜しまれながら逝去されました。母校、同窓会を愛し、公務多忙の中、総会にもよく出席してくださいました。心から冥福をお祈り致します。

いよいよはつきりとそして身近かに生き生きと生涯貫き通した強固な信念而かも尊く光り輝いてゐるのは常に正念であつたという事である。

大臣の地位に迄座つたが、その權威も権力も微塵の空みもなかつた、ここにこそ数々の業績が称えられる所以があると思ふ。

下越水害のあの悲惨の中から立ち上つて政治の道に入り、尊父の御縁であつたことは当

然のこと乍ら良き先輩政治家に遇い、又もつて生れた強靱な精神力と思索力をあく迄「健全なる人間としての常識」の上に立つて生涯を一貫したものである。

から柔道をものし、卒先、予科練に征くという熱血感、農大時代は、応援団で鳴らし、下宿では、日本農業、農村の将来は、と深夜まで、目を輝かせ説く、憂國の農學徒であつた姿がなつかしい。彼は、若い頃「俺は政治家にはならん」とよく口にしたものだが、所詮、政治家の子、しかし、あの悲劇を背負つての政界への初投盤にならうとは、悲愴感に覆われた当時のことが回想されて未だに痛々しい。以来、

「命の尊さ、いつくしみを政治展開の理念に据えて、睨り決して挑戦した彼の災害勇、人口、食糧、農政の權威としての活躍は、内外に感銘を与えて、不滅の金字塔として遺されたことは、多言を要すまい。彼は、彼の著書「想」で、農水相時代を回顧し「厳しくも命がけの四一七日であつた。ふりかえると苦悩に満ちたしかし充実した日々であつた」と記している。

悪ければ徹底的に休めばよかつたのに、やはり政治家の宿命かと思つとやり切れないが、しかし、四月十八日に彼の枕辺に立ちすくみ見た彼の顔は、荒修業を終えた僧に似て、安らかで穏やかであつた。波乱万丈だつたが、彼の人生は、珠玉の人生であつたと確

佐藤隆君を 偲んで

五十二回 澤田義郎

政治家の次男に生まれながら戦中は率先して予科練に進む。国を守るの意気や壮

両親と息子二人を災害で亡くし、災害の救済にと自らも政治家となる。農林水産大臣となるや国の興望を一身に担いアメリカに渡り、牛肉、オレンジの自由化交渉にあたる。一度ならず二度でも三度でも閣僚として、国家、国民のために活躍してもらいたかつた。

向う気の強い頑張り屋だつたが茶目ツツ十分

新中時代の彼は、並い秀才揃いのなかにあつて、品行方正學術優秀とはお世辞にも申せなかつたようだ。柔道部に属していたが、廣川彰恩などというバカ強い同期生の蔭にかくれてか、これもまた

大したことはなかつたようだ。しかしあの精悍な面構えから伺われるごとく、向う気の強い頑張り屋で、猛者連に戦を挑んでいたようである。それでいて茶目ツツ気があり、面白いことをいっては我々を笑わせていた。これは大臣になつても全く変わることがなかつた。新潟のホテルで大臣就任祝賀会が開かれた。大勢の人に囲まれ、大臣といえども緊張もし、気遣いもあつたようだ。しかし、我々同期生のグループを見付けて寄つてきた彼。もう彼は昔の佐藤隆にもどつていた。袴を脱いで気楽に話せる仲間。この時の話は宮中の便所の話。彼の茶目ツツ気ぶりの面目躍如。

五十二期生の中心的存在 五十二期生はまとまりがよかつた。それは中心的存在として彼がいたこと、それに加えて名参謀筑波龍子君がいてこれのとりまとめをしてくれたればこそである。五十二期生もやがて六十五才。今中心的人物を失い、寂しさも一入である。彼亡きあととわれわれの財産である同期生、ひいては同窓の絆を、今後とも大切にしてゆきたいものである。

※後に全日本柔道選手権試合に出場

古代「沼垂城」 木簡の発見

69回 小林昌二
(新大入文学部教授)

国道一六号線バイパス工
事の前調査で、奈良時代前
半の墨も鮮やかな「沼垂城」
と記された木簡が、三島郡和
島村から発見されたのは、昨
年一月二〇日であった。私
への知らせは、その四日後に
青山同窓会後輩の県文化行政
課坂井秀弥君からの電話によ
るものであった。速やかに見
てほしいとの依頼の声は、心
なしかふるえ気味に聞こえ、
発見の重大さがひしひしと伝
わってきた。

国道一六号線バイパス工
事。前調査で、奈良時代前
半の墨も鮮やかな「沼垂城」
と記された木簡が、三島郡和
島村から発見されたのは、昨
年一月二〇日であった。私
への知らせは、その四日後に
青山同窓会後輩の県文化行政
課坂井秀弥君からの電話によ
るものであった。速やかに見
てほしいとの依頼の声は、心
なしかふるえ気味に聞こえ、
発見の重大さがひしひしと伝
わってきた。

私は、今本誌をお借りして
全国各地で活躍の青山同窓
会の各位にこの郷土の大発見
をお伝えすることは地元の大
切な務めであると思う。

まずはじめに、「沼垂城」
木簡の発見で明らかとなった
新史実を記し、次いでその意
義を述べてみたい。

現場で木簡と遺構を拝見し、
その期待通りの内容にあらた
めて驚いた感激は、半年余り
全く知られていなかった「沼
垂城」(ヌタリノキ)と呼ば
れる城柵が、養老年間(七一
七～七二四)に存在していた
ことである。

第二には、『日本書記』大
化三年(六四七)の東北地方
城柵の最古の記録にある「淳
足柵」(ヌタリノキ)と字音
を同じくし、改称しつづ七
八〇年以上にわたって機能を
果たしていたことである。

第三に、「沼垂」のこれま
で最古の例は、延長五年(九
二七)の『延喜式』や同時期
の『和名抄』によるものであ
った。「沼垂城」は、これらよ
りも二〇〇年以上古く、沼垂
地区名の起源であることが明
かになった。

以上の新しい史実は、私達
の郷土や歴史や古代日本の理
解にどのような変更を迫って
いるのであろうか。

第一は、文武二年(六九八)
と四年の二度にわたる磐舟柵
修造記事が『続日本紀』に見
られるが、この頃には淳足柵
が記録に全く見られないこと



ろから、もはや廃絶し、短期
間に終わった可能性が高いと見
なされ、越後国の蝦夷支配は
早くに安定したと一般に理解
してきたが、これが完全に覆っ
たのである。

知られる豊浦町曾根遺跡、笹
神村発久遺跡、新潟市の場遺
跡、墨崎町緒立遺跡などをネッ
トワークで結合した支配機構
を形成していたと見られるこ
とである。

第二に、八世紀の第二四半
期まで「沼垂城」の活動が続
いていた史実は、これが北方
の羽田国成立や秋田築城の
後方支援基地であったことを
示し、越後国内の中核として
現在官衙(役所)遺構として

要になった。この方法では
「淳足柵」・「沼垂城」が確実に
見つかるという保障はない。
しかし、二二〇年以上も前
の名称「沼垂」が地名として
明らかどころ以外にその手
掛かりを期待することはでき
ない。この発掘調査が次の
情報を内蔵していると見られ
る点からも有望なのである。

「在京新中三五会」 春の集い

さる4月26日、後楽園内
「涵徳亭」に於いて春季恒例
午餐会を開催。1年振りです
学院会の出席者が参加、アルコー
ルの量も進み、最後に応援歌
を合唱し、秋の例会に再会を
約して午後3時解散。



出席者左のとおり。
入沢健三、岡四四、熊倉雄
三、近藤百之、菅島秀雄、桜
井真一、笹川正男、丸山求蔵、
山名栄一(夫人同伴)、渡辺秋
策(文責 尾崎三夫)

名簿について

百周年事業の大きな柱の一
つである、会員名簿の発行に
ついての現在までの進行状況
をお伝えします。

コンピュターへの入力作
業が終わり、近々(7月中旬
頃)葉書による確認調査が行
われます。この葉書の返信に
より住所確認の取れた人と住
所不明者を区分し、不明者の
再調査が行われます。クラス
幹事のご協力をいただきなが
ら、名簿会社も独自の調査に
より不明者の住所判明に努め

ます。
住所確認の調査葉書に名簿
の購入申し込み欄があります
のでそれで申し込んでくださ
い。価格は一冊5000円
(送料、消費税込み)です。
名簿への広告のお願い、
名簿に広告欄を設けてあり
ます。名簿会社からも同窓各
位にお願いにありますが、
広告を出していただける方、
又は会社は同窓会名簿出版局
(025-183-6221)担当 小
林秀夫、白柏尚子)までお知
らせください。

青山ゴルフ会

鈴木会長より優勝カップを
いただいた。1986年に
第1回コンペを開催。以来

毎年春秋2回行われて参り
ましたコンペも昨秋にと
りきり戦が行われましたの
で、新しく会長よりカップ
をいただき。さる6月6日

(木曜)月岡フオレストゴ
ルフクラブを会場に春の大
会が行われました。優勝は
75回堀 一君でした。次
回秋の大会は9月26日
(木曜)に、紫雲ゴルフクラ
ブで開催されます。ぜひ多数
参加されますようお願いして
います。詳しくは同窓会事務
局にお問い合わせください。

市橋敏雄氏

日展出品作を
母校へ寄贈

リシャ、ローマ、ロンドン、パリ、ベルリン、シベリヤを縦断してアメリカ経由、日本に帰る道程が歌い込まれていて、様相を托し発表した。

日展出品作を、既にも、新潟県、新潟市に寄贈され、この度の記されたことであることです。

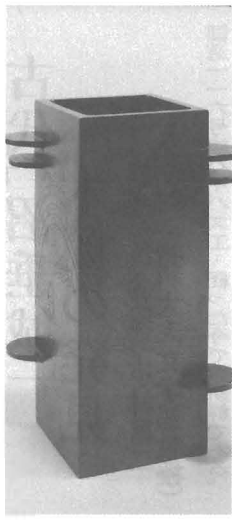
母橋へ寄贈
既にも、新潟県、新潟市に寄贈され、この度の記されたことであることです。

寄贈作品 朱銅花器

「天翔ける航跡」について

43回 市橋敏雄

私が新潟中学を卒業し、いろいろな歌を教えられたのは昭和12年(二十六年)に世界一周の歌があった。中(件)、翌12年陸軍予科士官学校に入學、そこで上級生から



その中、今次の大戦で、陸はインド国境まで、海はフィリッピン、ベトナム、カンボジア、マレー半島、タイ、ピルマ等海のシルクロードと言われる地域にも航跡を残した。しかし終戦を機にインド以西には行くことは出来ず、夢に託して空を翔けめぐること



我々40回生は、昭和8年卒業以来60年に至る(ナンナン)として。我々の前後のクラスの人達と同じであるが、先の大戦で戦艦に倒れ、あるいは南溟に死し、また謀報活動に従事し、終戦と同時に漸くの思いで故国に脱出して来た人、終戦と同時に北鮮から脱走帰国した人、戦時捕虜として辛酸をなめた人等、様々な人生模様を織り成している。

如何なる機械でも70年も使えば無故障ではあり得ないように、無病息災という人は珍しく、大なり小なり「ガタ」

興じ、絵筆を弄び、又は碧巖録、無門関の公案によって絶對無の境地に浸りながら、茶道の奥義を極めんとしている。

昭和58年には卒業後の50年間の回顧録(100頁)を發行し、63年には150頁に及ぶ55年の回顧を發行した。これによって多くの同期生の消息をお互いに知ることが出来た。

最初、日がたつにつれてその不安はなくなり、生徒との交流が深まって行きました。特に青陵寮前ということで、準備作業を手伝うことにより、授業を離れてのコミュニケーションもと易く、また、連合単位での付き合いなど、自分の担当クラス以外にも、その輪は広がっていきます。それを感じていく中で、本当に充実した、有意義な時間を送ることができたと思えます。自分なりに、精一杯積極的に明るく、生徒達と付き合ってきたが、皆さん次回をととても楽しみにしつつ名残惜しうに別れて行く。出来るだけ長続きさせたいものである。

如何なる機械でも70年も使えば無故障ではあり得ないように、無病息災という人は珍しく、大なり小なり「ガタ」

夢のようない週間

96回 東北大学文学部四年 小林典生(国語)

今回の教育実習での私のモットーは、「何事にも全力で取り組む」ということでした。若さを最大の武器として、授業はもちろん、授業を離れた普段の学校生活においても、精一杯、生徒達と付き合い合っていく、そう心に決めて、実際に臨みました。最初の挨拶では上がってしまい、生徒の視線が恐ろしくさえ感じられました。果たして生徒達と仲良くなれるのだろうか、不安が先に立って、実習前にあった期待や意気込みは、影をひそめてしまいました。

しかし、日がたつにつれてその不安はなくなり、生徒との交流が深まって行きました。特に青陵寮前ということで、準備作業を手伝うことにより、授業を離れてのコミュニケーションもと易く、また、連合単位での付き合いなど、自分の担当クラス以外にも、その輪は広がっていきます。それを感じていく中で、本当に充実した、有意義な時間を送ることができたと思えます。自分なりに、精一杯積極的に明るく、生徒達と付き合ってきたが、皆さん次回をととても楽しみにしつつ名残惜しうに別れて行く。出来るだけ長続きさせたいものである。

如何なる機械でも70年も使えば無故障ではあり得ないように、無病息災という人は珍しく、大なり小なり「ガタ」

イラク拘束生活体験記

62回 東福寺 正弘 (丸紅バグダード支店長)

昨年八月一日、イラクによるクウェート侵攻が起きた時...

でとって来たやり方を見ても、生命の保証すら分らないという状態の中にあつて...

確かに、日本人として、未だかつて体験したことがない、集団で人質にとられ、出国禁止にさせられたという事態は...

というものでした。クウェート組は、特定の場所に監禁されていた訳ですから、精神的苦痛は、大変なものがあつた...

日本食がないと我慢が出来ないという事で、人質になった国は、日本の他に、英、米、仏、独とあつた訳ですが、食料に關して騒いでいるのは、日本人だけの様でした。人質と...

換手が介入する電話だけが頼りでしたが、この電話も仲々つながらず、つながつても盗聴されて居り、かつ十分間で切れることになって居るため、仲々思う様に日本の情報が得られないことでした。イラク国内の情報は、全くの大本営発表で、真実を伝えていないという意識が最初からありましたし、時々聞えて来る情報は、日本が早く経済制裁に参加したり、中東貢献策を打ち出して、反イラクの方針をとったという事で、イラク側の我々が在留邦人への対応が厳しさを増して来ました。かかる状況下で、日本はイラクに在留邦人が居ることを忘れていたのではないかと、我々は日本から完全に忘れられているという意識が高まり、日本人会として、平和的解決のため、政府の特使派遣を要請したりしました。之は後になって中曾根元首相と、自民党議員団のイラク訪問となって実現しますが、紛争勃発後一ヶ月半を経過した時点で、初めてアントニオ・猪木さんが、バグダードに入って来てくれた時は、イラクに在留邦人一同大変感激致しました。猪木さんを契機として、その後は、沢山の方々の訪問を受け、日本人会としてもその対応に追われ

ましたが、日本は我々のことを、非常に心配してくれているという気が伝わり、不安感で一杯であつた在留邦人の気持ちを安定させてくれました。拘束期間最大の恐怖は、何と言っても武力衝突の可能性が、常にあつたという事です。武力衝突があれば、バグダードが攻撃されるといふ予想は当時からあり、それに如何に対応するかという問題がありました。幸い我々は従来からイラクで、色々な仕事をやっていたため、バグダードから百キロ離れた所に、高速道路の工事現場を持っていて、可成りの食料品も運び込み、一旦事ある時は、そこで生活を考え、避難訓練も行っておりました。幸い、日本人は全員武力衝突が行われる前に、日本に帰国出来感謝している次第ですが、十一月の初めに、突然サダム・フセインが、外国人の全員解放を発表したのは何故かという疑問が未だに残つて居ります。あれは単なるサダム・フセインの気まぐれであつたのか、彼にも仏心があつたのか、何れにしろ、我々イラクに拘束されていた者は、サダム・フセインに感謝せねばならぬということになります。

職員異動(平成3年7月)

Table with 2 columns: Position (e.g., 全日制, 校長, 教諭) and Name (e.g., 退職・転出, 宮地正樹, 児玉卯栄之).

滝沢先生、母校校長就任 おめでとうございます。

— 80回卒同期会 —
80回 足立亘宏
(足立プリント)

見覚えのある先生のお顔を新聞紙上で発見したのは、平成2年度も押し追った3月末でした。「あれ、強一先生……」新潟高校の校長……「驚きと共に、自分のクラス担任の先生だった事もあり、何かちよっぴり誇らしい気持ちになりました。」

同級生に会うとその話題で持ち切りとなり、ここは同志で発起して、先生の就任祝賀パーティをやるやうということに話はずまりました。

短期間で準備を進め、多方面の方々のご助力をいただき、何とか開催にこぎつけたのはゴールデンウィークの5月3日。58名の同期生が集まってくれました。

卒業以来19年。本当に懐かしい顔、顔、顔。みんな高校時代の面影をはっきり残して、そこそこに沸き上がる歓声で、会は祝賀ムードに包まれました。滝沢先生の挨拶を聞いて、いと、恐怖の桂馬飛び・古文の授業を思い出しました。私達の世代は、学生運動が活発だった頃で、1年の時に封



会は午後1時から始まり、途中田村誠 先生のご参加もいただき、5時まで和気あいあいと続けられました。その後同期生の経営者「ワラビー」で2次会。ほとんどの人が引き続き参加してくださり、両先生も夜の10時まで付き合ってくださいって青陵祭のような盛り上がりでありました。



2次会も含めると10時間にも及ぶマラソン同期会。疲れたけれど本当に楽しかった。発起人一同慣れない企画で、苦勞も多かったけれど、やってよかったという気持ち一杯です。青山同窓会の三浦様をはじめとし、ご協力くださった方々本当にありがとうございます。

来年は母校創立百周年とのことで、校長先生もお忙しいと思いますが、お体に気をつけて益々のご活躍をお祈り致します。そして同期生で早い人はもう子供が来年高考受験だそう、親子2代にわたって先生のお世話になる人もいます。先生のお世話になる人もいます。先生のお世話になる人もいます。

苦味走りたい男

73回 樋口正昭

私は新潟高校第七三回(昭和40年)の卒業です。

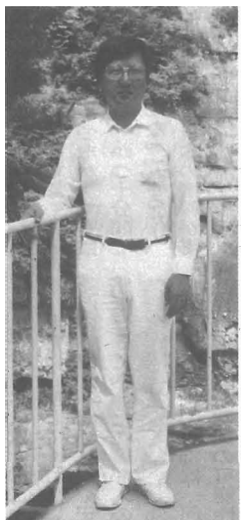
私達の高校時代は、新潟地帯で酷い目にも遭ったけれども、とても思い出深い貴重な三年間だった、と今でも思っている。

当時の同期生は私にとって皆快良の友達であって、良い意味で皆秀才であり、穏やかではあるがつまらぬ權威に媚びることのない強さを併せ持つた人柄は、青山健児の特質を十二分に体現していて、共に交わると心の広がりや安心感を与えてくれる。

今日は、そんな同期生の中の一人であるO君について書かせて戴きます。

彼は、新潟高校卒業後、早稲田大学政治経済学部を出て、現在大手会社の駐在員として香港にいる。彼は、私が所用で香港に行くときには必ず会うことになっている。彼は陸上競技の有名選手であり、サッカーの名手でもある。高校時代は生徒会長としても活躍した。香港では、日本の駐在員の子供達の野球チームの監督である。

子供の時から長身で、色浅黒く、あくまでも快活で正義感に溢れ、私の見るどころ全く非の打ち所が無い、とはこの男を言うのだ、と常々思っている。高校時代に「二十世紀英米名文選」という本の中に「Sty and Austere」の部分があった、私が「長身で苦味走りたい男」と訳したら、英語の川島正先生が誉めて下さったことがあったけれど、O君は正に「sty and austere good-looking」であって、ジャンクに行き交うビクトリアハーバーの岸辺を彼と共に風をきって足早に歩く時には、いつも私の私でさえ心が浮き浮きし、何とも言えない満足感がある。彼は外国から出張で香港へ戻ったばかりの日であろうと、これから出かける直前であろうと、



☆同窓唯一の現役国會議員、佐藤 隆氏の逝去は、もっとと長生きして、政治の場で活躍してほしかったと残念です。☆来年の百周年に向けて募金活動をはじめ色々な記念事業が行われます。各期幹事を中心に青山同窓会の大きな纏まりと実りを見たいものです。☆これから秋口は同期会、O日会の季節です。次号への報告記をお待ちしています。

少しい時間も時間がある時には必ず会いに来てくれる。物腰が限りなく優しく、かつ強い。並の男でない。世界を相手にしている男の大様さが彼にはある。

彼は、日本から離れて久しい為、時々、「自分の住むところが果たして何処なのか、もう分からなくなってしまう、根無し草のようだよ」と言って少し寂しそうに笑う時があるけれど、その笑い顔がとても魅力的だ。それでも私が先日、昭和三十八年七月二〇日付の「青山」という、新潟新聞が発行していた新聞を持って行って見せたら、子供のような顔になって喰い入るように読んでいた。

☆かつて本校に勤務されたことのある新田校長先生からのご挨拶は、青山の歴史のページを思い出させてくれる楽しいものでした。

彼を見ていると、司馬遼太郎が言うように、「学問とは知識ではなく態度である」、ということの意味が良く分かる。

私が愛する在学中の青山健児諸君も、将来はO君のような男になってくれると嬉しい、いつも思っている。

☆東福寺氏の「イラク体験記」同期生からのお知らせで、寄稿を依頼したものです。海外出張などで多忙の中ありがとうございました。

☆ふるさと新潟が古代史と新しい係わりを持つ期待を感ぜさせる小林教授からの寄稿も編集部からのお願いでした。

☆市橋氏からの作品寄贈のお申し出ではありがとうございました。

☆同氏は、50号の会報です。

編集後記

画人笠原軼と その父漁村 (十九)

60回 小林智明

家兄渡辺軼と「徳川慶喜公伝」

七月一日の創立記念日には、第四回の立雲会画会が開催された。二階の四教室に卒業生の作品八十点、在校生の作品百二十点が展示され、一般来観者は三百二十余名という盛会であった。美術学校四年生の軼も、また作品を出展したと思われるが、当時の目録などが無くわしいことはわからない。

その頃の東都の美術界は、この年明治四十年十月に第一回の文展が上野の勲業博物館で開かれた。一部日本画、二部は洋画、三部は彫刻と各派の作品が一堂に会し、新聞や雑誌も書きたて天下の耳目を集めた。洋画の部では和田三造の「南風」が最高賞を受賞した。和田三造は青木繁や熊谷守一らと同じ明治三十七年美術学校卒の先輩で、黒田清輝のひきいる白馬会(明治二十九年設立)に属していた。当時の洋画界は、明治二十九年に東京美術学校西洋画科の教授となり、日本最初の洋画美術団体明治美術会(明治二十二年設立)から別れて白馬会を作った黒田清輝一門の勢力が全盛で、東京の青年画家たちの氣持をとらえていた。一方これに対立して中村不折や満谷国四郎ら、小山正太郎の画塾、不同舎の流れをくむ太平洋画会の勢力があった。

将来を囑望される美術学校の若い画学生である軼も、その青春を謳歌し、芸術に、文学に、酒に、或いは恋に、若い心を燃やしたことを思う。しかし反面当時の東京の画家生には、親の反対を押しきって上京、国許からの送りもなく、車引きや、人夫、その他いろいろナルバイトで生活費をかせいで勉強していた者も多くいたのも事実であった。明けて明治四十一年二月一日、新潟中学校在京者親睦会が医科大学前の豊園という牛肉屋で開かれた。

桜井政隆(天壇、五回生) 大先輩をはじめ、保倉熊三郎、佐藤政太郎、湧井廉平らの常連と、渡辺軼(七回生) 高橋謙(七回生 天王村) 渡辺忍(八回生、関村) 鷲尾勇平(八回生、本町通) 白勢量作(九回生、本町通) 小林松次郎(十回生、寄居町) 相馬園二(十一回生、五十公野村) 羽下昂治郎(十一回生、川内村) ら三十三名が出席した。軼は出席していないが兄の軼が出席し、順番を卒然として立って姓名を名乗り、「僕は軼ツマの子です」とつけ加えて一席笑した。「氏は洒然たる。斯の如き快男子である。」と遊方会誌に見える。

この頃、兄の軼は佐渡出身で父の漁村と同じ円山濱北門下の同朋、萩野由之が主任をする「徳川慶喜公伝」の編纂員を中心として、兜町の渋沢家編纂所に勤務していた。

渋沢栄一は天保十一年(一八四〇)、武蔵国榛沢郡血洗島村(埼玉県)の豪農の家に生まれ、二十四才の時江戸へ出て攘夷を志しようと横浜の異人館焼打を企てたりしたが、後に一橋家に仕え、更に一橋慶喜が徳川十五代將軍となるに及んで幕臣となり、慶喜の政權返上によって明治維新が成った後は、乞われて明治新政府に出仕したが、期するところがあつてまもなくやめた。幕末、維新の動亂の世をくぐりぬけ、第一国立銀行創立をはじめ関係会社五百に及ぶ渋沢財閥を成した偉人である。

その渋沢栄一が、百年の後世のために「徳川慶喜公伝」を遺すことを終生の事業として明治二十年代に決心し、準備し、史学の大家萩野由之にその主任を依頼して、実際に編纂事務に着手したのが明治四十年六月であった。それから凡そ十年の歳月を費して大正七年一月に刊行された。

歴史は、勝者の側の資料は豪華と権力にまもられて誇張され易く、敗者の側の資料は不遇の地に落ちて消散を早め、故意に湮滅させられたりし易いことを教えている。明治維新もまたその例に洩れず、これらの資料を集め、公正な史家の眼に託して後世

の判断に委ねるといのが彼の意図であった。全八巻から成るそれは、徳川氏及びその臣属諸藩の資料を集めたもので、伝といふがきわめて精度の高い史書である。幕府佐渡金山の地役人の家に生まれた渡辺漁村の長男軼が、その編纂にたづさわったのも奇しき縁というものであろう。

四月には軼は美術学校の五年生、最終学年となった。卒業制作の年である。夏休みに帰省して、学校



旧校舎全景 笠原軼 画

業した。其頃家の近くに「ぶかや」と呼ばれた土方の親方が居て、正月の餅搗や移転の手伝に来て、酒を飲んで軽な話をして家中を笑はせていた。中学校を出ると自分の一家は学校町に移った。その家は勝手口の前に在った古井戸に、近郊の女が投身して、腰から上だけ逆さに水面に出して居たのを、例の「ぶかや」の親方が曳き上げ火葬にしたが、水から出ている腰から下がどうしても焼けないで、石油をぶっかけて漸く焼いた。そんな話を聞かされる前にその井戸は埋めてあったし、そんな無意味な家とは知らず借りて入って、父は亡くなるまで十年近くも其家に住んだ。其家の真向ひに「アンヂョサマ」と呼んで庵寺があった。其所は旧幕時代の刑場の跡と稱せられ、寺の入口に大きな苔蒸した供養塔が二三墓建っていた。それは天明争動の義人湧井廉四郎の冥福の為に建てられたものと聞いて居た。……」と「高志路」第二巻第四号(昭和十一年四月刊)の「白山浦の変遷」という文に記している。

その学校町二番町の家から、七月四日に次のような文の給ハガキ(新潟市郷土資料館蔵、岡山県御津町金川の郷里に帰った美校の級友安藤東一郎に宛てて出している。

「俺の大切な砂山が、皆んなこうして破壊されつつあるのには腹が立つて仕方がない。故郷は何だか年々に俺れを嫌うかの如き心地がする。此地では愈々風景を断念して所謂觸れてるものに専念探察して居る。二三日前から運よくある工場を見付けて、昨今の雨ふりにも毎日其処で制作をして居る。幸ひうまくいきそうだ。君の方のモデルいふのは例の落花の分かね、彼奴は御困りだろ、僕の方ならば金次第、随分花柳社会の女を手に入れられる。先日一寸からかたら、悦んでたでか、せるなんてぬかした奴がある。」と、砂山を背景にトロッコを押す数人の絵が画かれている。宅地造成でもしている作業であろうか、新潟の砂山の風景が変って行くのを嘆いている。卒業制作にもとりかゝったようだ。(つづく)

町の家で父漁村の側にしばらく起居することになった。漁村は相変らず新潟中学校で漢文を教え、寄宿舎の舎監として月に六日から八日くらいも宿直をして勤務に精勵し、生徒の教育に熱心であった。しかし夏休みは宿直もなく、久し振りで親子水いららずで過ごしたことを思う。その学校町の家について軼は「自分が白山浦に住んだ最初の記憶は、明治二十二年頃の大洪水に、舟に乗って運ばれたことである。その後学校町に移り、再び白山浦に戻って中学を卒

ハイテーン水泳 新中・新高 ⑭

60回 平田大六(関川村)

25 運動選手は 頭がわるい

一九四九年高校一年、私が県高校大会での初優勝、つまり県の表舞台に「平田大六」という名前がはじめて現れたのは七月の末のことであった。

その頃、父兄会が開かれ、母はこのためわざわざ関川村から来てくれた。終ったあと、母は憤激して帰ってきた。おまたちの先生はロクな奴が

大学入試の結果から

今年度は本校初めての一年生12学級の卒業生が巣立った。全国的に最大の受験人口の

厳しい入試状況の中で、国立大学では北海道大、東北大、筑波大、東京大、東京工業大など難関校で現役生の健闘が目立った。中でも東北大の現役27名は快挙である。

私立大学は今や「安全校なき総難化時代」といわれるが本校は慶応、明治、立教、東京女子大などで現役のめざましい活躍が見られた。

実質の合格率も本年度は約65%（昨年度が58%）でなか

思い出になりにかけていた。母はそれを知らない。

長男を戦で失い、十才若い末男の私にそれと同じ望みをかけなおそうとしている母の

気持は、私の身にしみている。しかし、その期待とは逆の場

で、毎日ハードトレーニングで私は青春の肉体を傷めつづ

けている。……。もう、学校も捨てて、ふるさとへ逃げて

帰り、母のふところに顔を押しつけて、許してもらいたい

なかの成績であった。しかし、近年本校の全体的な傾向として、志望校の選択に際して安全志向が強い。すばらしい能

力を持った若者が集まっているのだからそれぞれその限界に挑戦する気概がほしい。

（進路指導部長 葉茸 公）

後輩の活躍

川原のぞみさん(背泳)、県総体二連破!



記録突破、県高校新・200m自由型三位勇健義紀
陸上・400mリレー二位
遠藤、小島、中枝、小林、400mハードル四位小泉賢

●**県総体**
水泳・100m背泳一位川原のぞみ(大会新、日報標準記録突破)・200m背泳一位平岩亮
○空手・女子団体三位
●**北信越**
○ラクビー一位
○柔道・軽中量級三位堀口大助

●**県美術展**
版画部門入選
梅田雅子、大嶋尊弘

〇ボート・ダブルスカル二位(神田、篠川組)インターハイへ・シングルスカル二位

〇体操・個人総合六位佐々木孝子(インターハイへ)
〇ラクビー 四位
〇柔道・軽中量級 二位堀口大助
〇登山・優秀校
〇庭球・男子W三位佐藤、鈴木組
〇フencing・男子団体三位・女子団体一位インターハイへ・男子エペ二位木野井慶介・女子フルレ一位佐藤真由美(インターハイへ)

〇母校では今……
一クラス45名11学級の募集定員となる
過去3年、一学年12クラスの編成でしたが、今春は11クラスでスタートしました。昨年は全校36学級1600余名の生徒がおり、ビッグファミリーの様相を呈し、青陵祭では12の連合がしのぎを削り壮観でした。今年も、12連合が一年生なしの2、3年百名弱で他連合と各部門で競い合いましたが、よくまとまりを見せ、応援部門で一位を獲得したのは、立派でした。

平成二年度 青山同窓会会費納入者追加分

(1月より3月までに納入のもの)

郵便振替口座 新潟5-4455(青山同窓会)
納入先 第四銀行学校町支店口座 0275210(青山同窓会)

会費納入のお願い
年会費 1口1,000円
できるだけ1人2口以上でお願いします。
現金納入は 新年会・総会の会場
又は母校同窓会事務局へ

期	氏名	仁多見	一彦	木博	石川	紀一郎	田村	博務	69	水野	美知子
28	塚田武雄	45	大滝俊夫	藤田礼一	熊倉正可	倉正可	山根博	70	加藤清	策	
29	石崎重郎		小野寺	今立元	佐々木城	63	佐藤博		川田昌	人	
31	金山井五郎	47	朝日朝吉	小野林	高外城		寺中雅		斎村弘	道	
33	磯部佐吉	48	阿部慶二	野吉六	山崎良一	64	内山武	73	阿部裕	誠	
34	坂井義信		大坂保男	原吉保	阿部池	61	畑星		野弘	一	
35	中若村一博	49	小藤弘安	新井勝	柴野良	65	藤井青	74	小崎木	治	
37	田根正		羽田俊夫	井上幸	村石小	62	野崎美		中井義	一	
39	関根二進		原高橋	岡林	石小		吉河政	75	坂近	二	
40	平田甚	50	高橋清	佐藤隆	近藤隆	66	河形和	76	近藤	邦	
41	浅田鋪一		吉村武	佐藤恒	近藤文		竹石中	80	田卷	明	
42	渡辺卓三	51	唐沢治	藤部恒	藤部真		田中史				
43	相沢藤	52	津野正	小石光	小石智	67	田中史				
44	近本		石川	小	小	68	田中史				